

同窓会報



同窓会設立10周年記念総会

第 11 号

'93. 12. 15

豊橋技術科学大学同窓会



同窓生諸兄姉へ

豊橋技術科学大学同窓会名誉会長 学長 佐々木 慎 一

前号において「エコロジー工学課程の新設はいま文部当局からこれの実現について格別のご理解を頂いている」と書いた。そしてこれはまさに現実のものとなり今年度（平成5年度）から発足の運びと相成った。目下1年次学生のみを収容するが学年進行により修士課程が平成9年度に、ひきつづき博士後期課程が設置されて完了の予定である。完成時点では教授8，助教授8，助手9の陣容となる。本学の謂うエコロジー工学とは何か。楠菊信副学長が天伯（14-2(79)59）に明快に説明されているので以下に引用する。

エコロジー工学とは何か？

地球環境悪化の折、これまでと異なる時代の流れを先導的に捉えるものとして、エコロジー工学の概念が出てくる。秋になると枯れ葉が地上を埋めつくし、動物の死骸も散在するが、これらがたまり続けて環境を汚すということはない。他の動物、菌類、微生物等が動植物の死骸、排泄物等を消化・解体し、最終的には水と土と炭酸ガスに分解して光合成の原料に変換し、他の植物の活動源としてしまうからである。これを生物循環という。しかし現代は人間の我がままにより人間とほかの動植物との間の均衡が崩れ、この機能は充分には作用しなくなっている。

動植物は生れる、働く、死ぬというサイクルをきちんととっているが、工場で作られた製品はどうだろうか。従来①物を作る、②それを利用するまでは考えていたが、③システム寿命が尽きた後の後始末、については全く念頭になかった。我々の体で循環機能が失われ、廃物が体内にたまればひとたまりもない。地球も1つの生き物であり全く同様である。今の工業社会はこのような物質循環を無視してひた走りに走ってきたといえる。

一方地球レベルでみると、起源以来の地球環境の正常循環に対し、これを損なう好ましくない兆候がいくつか現れつつある。すなわち人口、CO₂、酸性雨などなどの急増である。地球環境を悪化させるこのような指数関数的増加傾向は、我々人類が初めて経験するものであり、予測それ自身が難しいが、生物がこのような急激な変化に果たして耐えうるものだろうか。とにかく早急な対策が求められる所以である。前述の努力により生物循環系、物質循環系をある程度修復しえたとしても、ここで述べたような地球レベルでの難問が多く残

される。これらを解決して地球をクリーンに保たなければ我々の未来はない。空間的には国境や民族を越えた横の広がり、時間的には遙か後代の子孫を含む縦の広がりの中で物事を考えなければならない。

エコロジー工学は、地球の健康を取り戻すために必要な新しい学問領域として提起するものであり、地球上の諸活動を今後とも持続的に発展させるために、生物循環、物質循環からなる生態循環系の修復・改善・維持を工学的に支援する。微生物論から地球科学にわたる複合的な学問領域と定義される。

先般の知識情報工学課程の設置に加えて今や8工学課程を擁することとなり本学の教育課程は一層の充実を遂げたことになる。さらに研究環境の強化、教育内容の改善は国の篤い配慮と不断に行われる自己点検、評価の結実と相俟って着実に進行している。また外的には地域との関係をより濃密にするため豊橋サイエンスコアとの連繋による産学共同研究態勢の確立、国際交流の一環であるインドネシア高等教育援助プログラムへの参画等々大学のアクティビティはいやが上にも昂揚しているのである。

卒業生諸兄姉はいまや深刻な経済不況下ご苦労の多いことと思うがものづくりの原点を見失わぬ限り日本の経済が沈没してしまうことはない。いつかの辛抱そして回復への努力を惜しまずにいれば臆ては復活するに違なくそれぞれの立場で奮闘をお願いする。

それにしても前掲楠副学長の所説のとおり、今まで技術というと自然を征服し変えてゆく方向にのみ力が向いていた。共生のいわれる今日、人間と自然と技術の調和した新しい時代をつくらねばなるまい。これからは、ものをつくる前から廃棄するまでに要するエネルギーなど環境への負荷を評価するいわゆる環境アセスメントが必要なのだ。それと物質より精神、知識より倫理を尊重する風土そしてその中で健全な心構えを抱きつつ行動のできる技術者が求められるのだ。卒業生諸兄姉がこんな視点を失うことなく各界において、日本のため世界のため人類の未来のために活躍されんことを期待してやまない。



学 内 近 況 報 告

エネルギー工学系

卒業生、修了生の皆様、いかがお過ごしでしょうか。同窓会会報第10号（平成4年12月15日）以降の系内の動向をお伝えします。

まず、教官の異動ですが、平成4年12月16日付けで第二講座の岡崎健先生が母校である東京工業大学の炭素循環素材研究センターへ教授として転出されました。また平成5年3月10日付けで第二講座の李昌彦先生が本学を退職され、母国（韓国）仁荷（インハー）市、仁荷大学の機械工学科、講師として赴任されました。第一講座の胡勇先生は、平成5年3月31日付けで本学を退職され、日立建機株式会社土浦工場に就職されました。平成5年4月1日付けでは、浦風和裕先生が富山商船高等専門学校の電子制御工学科へ講師として転出されました。学内異動では、埜克己先生が技術開発センターの助教授として配置換えされました。また本学に新しくエコロジー工学系（第8工学系）が新設されましたが、その教官として大竹一友先生と成瀬一郎先生が異動されました。系内では高木章二先生と江崎昇二先生が第二講座に移られました。平成5年7月6日付けでは、埜先生の配置換えに伴って陣建橋先生が中国の華中理工大学から助教授として赴任されました。平成5年9月1日付けでは渡部英昭先生が秋田工業高等専門学校の機械工学科から助手として赴任されました。

したがって現在のエネルギー工学系のスタッフは以

畔上 秀 幸

下のとおりです。

[第一講座：熱・流体工学講座]

教 授：後藤圭司，三田地紘史，日比 昭

助 教 授：中川勝文，北村健三，柳田秀記

助 手：鈴木孝司

[第二講座：エネルギー変換工学講座]

教 授：小沼義昭，蒔田秀治，高木章二

助 教 授：吉川典彦，鈴木新一

助 手：江崎昇二，渡部英昭

[第三講座：機器設計工学講座]

教 授：竹園茂男，本間寛臣，上村正雄

助 教 授：関東康裕，陣建橋，畔上秀幸

教務職員：Quasin Hussain Shah

[技 官] 徳増 学，森川正治，神谷昌宏

[事 務] 羽谷満小，野亦真理子

系長は竹園先生がされています。

次に就職状況ですが、厳しい不況で、求人のある会社は昨年をかなり下回る268社に留まりました。しかし9月末の時点で、修士修了見込み学生はほぼ全員、学部卒業見込み学生もあと数名が残るのみにまで漕ぎ着けました。これも先輩諸君の活躍があってこそその結果であると思います。

それでは、卒業生および修了生の皆様のご健康と一層のご活躍をお祈り申し上げます。

生産システム工学系

卒業生、修了生の皆様、何かと波・風の激しい昨今ですが、技科大で培った持ち前のバイタリティで日夜それぞれの持ち場で活躍されておられることと思います。本年度の生産システム工学系の動向についてお知らせします。

まず、新任教官としては富山高専より任期制教官として高橋先生が製錬工学研究室の助手に着任されました。計測システム研究室教授の北川先生が工作セン

新 家 光 雄

ター長の要職に着かれました。一方、工作センター助教授の梅本先生が接合加工研究室へ戻られ、同研究室講師の福本先生が工作センター助教授に昇任されました。工程制御研究室教務員の前田先生が助手に昇任されました。また、計測システム研究室講師の三宅先生が助教授に昇任されました。精密加工研究室教授の星先生には国際協力事業団の専門家としてインドネシアへ赴任されておりますが、任期は後1年といった所で

す。

教官の転出・転任は次のようです。工程制御研究室教授の野村先生が名古屋大学工学部材料プロセス工学科教授として転任されました。さっそく研究室の整備をされ、母校での研究・教育に張り切っておられる様子です。精密加工研究室教授として着任されておられました松田先生が任期を終えられ、岐阜高専へ戻られました。外国人教官の任期終了に伴う移動もありました。精密加工工学研究室助教授として活躍されておられました Bandyopadhyay 先生がノースダコタ大学へ、接合加工研究室助教授として活躍されておられました Cabanas 先生がメキシコ工科大学へそれぞれ戻られました。また、モスクワ鉄鋼及び合金大学より材料保証学研究室助手として着任されておられました Akmoulin 先生には、スミトモ・コスモ・プラン(株)(東京)に移られましたが、本年で契約期間を終えられ、再びモスクワ鉄鋼及び合金大学へ戻られる予定とのことです。ロシアの情勢は、ご存じのように極めて不安定なのですが、母国でのご活躍をお祈り致します。

本系から長期外国出張されておられました塑性加工研究室助教授牧先生(アメリカ・マサチューセッツ工科大学)、工作センター助手江崎先生(同)が無事任期を終え帰国されました。両先生とも元気でそれぞれのお仕事に励んでおられます。

本年度の就職状況は例年になく厳しい状況となりましたが、それでも就職希望者のほぼ全員が内定となっております。ここ3年間の本系の求人数を挙げてみま

すと、一昨年度:714社、昨年度:598社、本年度:420社となっております。

現在の生産システム工学課程および生産システム工学専攻学生数ならびに生産システム工学系スタッフの陣容は以下のようです。

1 年 生:18名, 2 年生:17名, 3 年生 67名,

4 年 生:62名,

修士1年:48名, 修士2年:58名,

博士1年:4名, 博士2年:6名, 博士3年:1名

[加工学大講座] 岡根教授(系長), 星教授, 中村教授, 堀内教授, 梅本助教授, 牧助教授, 福本助教授(工作センター), 原田助手, 陳助手

[材料学大講座] 小林教授(専攻長), 川上教授(系長補佐), 森永教授, 新家助教授, 村田助教授, 竹中講師, 横山助手, 井上助手, 高橋助手, 山本教務員, 白井技官

[生産計画大講座] 北川教授(工作センター長), 西村教授, 小野木助教授, 寺嶋助教授, 三宅助教授, 堀畑助手, 橋爪助手, 竹村助手, 前田助手, 椿技官

[事務] 伊藤さん

以上が生産システム工学系の近況です。卒業生, 修了生の皆さんは, 近くにお越しの際には是非研究室の教官・後輩をお訪ね下さい。皆さんのご健康とご活躍をお祈り致します。

電気・電子工学系

冷夏, 不景気と今年は, どうも有難くない話が多い中, 卒業生・修了生の皆さん, 如何お過ごしでしょうか。清貧の思想も, この頃, はやり言葉になりましたが, 3系出身の諸君からは, 良品製品の思想をもった, ヒット商品の開発を期待しております。

本年も電気電子工学系教官には, 動きがありましたので, この点について説明いたします。

まず, 基礎電気・電子大講座では, 山口一弘先生が茨城高専に移られました。それに対し, 井上光輝講師が大阪府立高専から, また, カバレロフ・ワジム助手がロシア科学アカデミーから基礎大講座に来られました。両先生は藤井教授のもとで磁性体薄膜に関する研

朴 康 司

究をされています。また, 嶋田哲也助手は大阪大学から来られ英教授のもとで光CVDに関する研究をされています。

電気システム大講座では, 水野彰先生が新設されたエコロジー工学系に教授として移られましたが, 当面は第三工学系と併任されています。また, 土屋幸男先生は, 八戸高専に戻られ, アロックス先生もカナダに帰国されました。これに対し, 石井新之助講師が, 一関高専からシステム大講座に来られ, 小崎教授のもとで液体誘電体の帯電現象に関する研究をされています。

電子デバイス大講座では, 川人祥二先生が情報工学

系の情報システム大講座に講師として移られました。また、フランク先生はオランダに帰国されました。一方では、吉田明教授が分子科学研究所から戻られました。また、松本佳宣助手が、東北大学から来られ、中村教授のもとで半導体センサーに関する研究をされています。さらに、大島直樹助手が、名古屋大学から来られ、米津教授のもとで半導体のヘテロエピタキシーに関する研究をされています。

この様な異動を含めた、平成5年10月時点での3系の教官スタッフは、以下のようになっています。

[基礎電気・電子大講座]

教授：藤井寿崇（系長）、英 頁、太田昭男
 助教授・講師：服部和雄、井上光輝
 助手・技官：嶋田哲也、ワジム、前田勝典

[電気システム大講座]

教授：小崎正光（系長補佐）、榊原建樹、（水野彰；8系併任）

助教授・講師：長尾雅行、石井新之助

助手・技官：水野幸男、滝川浩史、日比美彦

[電子デバイス大講座]

教授：中村哲郎、吉田 明、米津宏雄

助教授：徐 熙敦、並木 章、朴 康司、石田 誠

助手・技官：松本佳宣、大島直樹、足木光昭

今年の就職状況は、去年にくらべ、かなり厳しい面もありましたが、なんとか乗り越えることができました。ただ、来年は、相当、就職に関しては、困難さが見えかかれています。しかし、このような局面を打開するには、真の人材を育てる以外に道はないのではないかと、とも考えます。卒業生・修了生の皆さんが、後輩に適切なアドバイスでもして頂ければと思います。

情 報 工 学 系

卒業生、修了生の皆さん、それぞれの職場でご活躍のことと思います。この夏は、冷夏、豪雨、台風、地震と自然の厳しさを思い知らされたように思いますが、いかがお過ごしでしょうか。

さて、前回の同窓会報から一年が過ぎ、情報工学系教職員にもかなりの異動がありました。平成5年9月現在の4系の教職員は次のようになっております。

[計算機大講座]

教授：中川聖一
 助教授・講師：今井正治、湯浅太一、奥山 徹、井上克巳
 助手・教務職員・技官：山本幹雄、塩見彰睦、森 和好、片岡嘉孝

[情報処理大講座]

教授：臼井支朗、伊藤宏司
 助教授・講師：池野英利、山北昌毅
 助手・教務職員：羅志偉、中内茂樹、石井宏幸

[情報システム大講座]

教授：宮崎保光、田所嘉昭
 助教授・講師：後藤信夫、川人祥二
 助手・技官：肖業貴、宮脇治雄

なお、本年4月に次のような異動がありました。

情報処理大講座の阿部健一教授が東北大学工学部電気工学科に移られました。同じく情報処理大講座の橋

後 藤 信 夫

口攻三郎助教授が岡山大学工学部に、船橋賢一講師が会津大学総合数理科学センターにそれぞれ移られました。

情報システム大講座の村上純講師が熊本電波高専情報工学科に、助手の奥田隆史先生は朝日大学経営学部情報管理学科にそれぞれ赴任されました。同大講座の助手の佐藤智夫先生は富士写真フィルム(株)に移られました。

一方、(財)新世代コンピュータ技術開発機構(松下電気産業(株)より)から井上克巳先生が計算機大講座の講師として赴任され、また本学博士課程出身の森和好先生が同大講座の教務職員になられました。

情報処理大講座では、本学博士課程出身の中内茂樹先生が助手になられました。

情報システム大講座では、3系電子デバイス大講座から川人祥二先生が講師として移られました。また、広島大学出身の肖業貴先生が富士電機(株)から助手として赴任されました。

さらに、本年9月より、東京工業大学工学部より山北昌毅先生が講師として情報処理大講座に赴任されました。また、計算機大講座の奥山徹先生は、平成5年7月より10ヶ月間、英国シェフィールド大学に留学されております。お近くに旅行される機会がありましたらお立ち寄り下さい。

以上のように、情報工学系では本年も教官の異動がたくさんあり、人脈のネットワークが一段と広がっております。

低迷する不況に加え、異常気象により戦後最悪の米の作柄不良になっております。厳しい情勢の中でこ

そ、真の実力を養い、新しい芽を培い、新たな飛躍に向けて着実に力をつけていく必要があると思います。情報工学系教職員一同、卒業生、修了生の皆さんのご健康と益々のご活躍、ご発展をお祈りしております。

物質工学系

皆様、職場で益々ご活躍のことと思います。現在の物質工学系の構成メンバーは以下のとおりです。

工業無機化学大講座：亀頭教授、逆井教授、大串助教授、角田助教授、前田講師、水嶋助手、佐藤教務職員、斉藤技官。

工業分析化学大講座：小松教授、鈴木教授、神野教授、青木教授、平田助教授、藤本講師、長睦助手、太田技官。

工業有機化学大講座：堤教授、伊藤(浩)教授、伊藤(健)教授、竹市助教授、西山助教授、伊津野助教授、永島講師、松本助手、川口助手、坂井技官。

分析計測センター：加藤助教授、服部助手。

事務：奥田事務官。

上野教授が、昨年秋に静岡大学工学部に転出されました。角田助教授が、昨年秋よりフィンランドに留学されていましたが、今年7月に帰国されました。川口助手が、今年1月にカナダに留学のため出発され、現在もがんばっておられるようです。

今年の就職活動は、かなりの苦戦をしいられまし

西山久雄

た。就職担当の伊藤(健)先生の奮闘めざましくなるとか大半決まったようです。女子学生は特に苦戦でした。昨年も、この欄に書きましたが会社の日和見採用は、不景気とは言え社会的に非難されるべき点があるかと思いますが。同窓会の先輩の皆さんの、社会での活躍も、後輩の就職に影響することも時に思いだし責任の一担を感じられてがんばられんことを希望します。

大学創立以来、10年を過ぎ少しずつ充実してきた研究設備や予算、研究環境は整備されてきました。それにつれ先生方の研究内容も世界の第一線で評価されるものが多くなり、それとともに学生諸君に要求される研究推進の技術も高度で難度が増しています。専門教育および研究の高度化とともに学生諸君はかなりのプレッシャーを感じているこのごろです。

先輩方々の来学を後輩が待っておりますので、ぜひ近いうちに機会をつくって来て下さい。時に酒を飲みカラオケでバカさわぎするのもよいでしょう。では。

建設工学系

建設業界にとって社会的・経済的に大きな岐路に立たされている昨今、同窓会会員諸兄姉におかれても多忙な毎日を過ごされていることと存じます。

さて、恒例ではありますが、昨年10月から現在までの6系関係の動きについて報告申し上げます。

まず人事関係では、平成5年3月には計画大講座の紺野昭教授(図書館長)が定年退官されました。開学初期の昭和54年4月に来られて以来14年間、途中の大病を克服し、本学並びに地域計画学の発展に大きく貢献されました。4月からは(社)東三河地域研究センターの顧問として、引き続いてこの地域の発展にご努

山田聖志

力されております。同じく3月には、構造大講座に平成4年から教務職員として勤務されていたChatchai先生が退職し本国タイに帰国されました。また平成3年4月に赴任された環境大講座の佐藤彰治助手は、古巣の釧路高専へ講師として戻られました。4月の新年度を迎えると、系長が北尾高嶺先生から新たに小野木重勝先生へ引き継がれ、また定方啓先生が図書館長に任命されました。更に、渡邊昭彦先生が教授に昇任され、大貝彰助教授が九州大学から赴任されました。大貝先生は紺野先生の後任として都市計画関係の教育研究を担当しております。今年新たに発足したエコロ

ジ-工学系(8系)には建設工学系からも多大な協力を求められ、その結果、北田敏廣先生が8系の所属となりましたが、引き続き6系学生の講義・研究指導も担当致しております。9月には、昭和61年7月以来計画大講座の助手として、精力的に教育にあたられてきた山崎寿一助手が大阪市立大学に移られる一方で、雷哲翔先生が教務職員として香港大学から赴任されました。更に、10月には大阪大学から青木伸一先生が助教としてこられました。青木先生は海岸・海洋工学の研究を専門とし、中村先生と共に水工学関係の教育を担当します。

以上、一年でかなりの人事移動がありましたので、改めて平成5年10月現在の教育体制を示しますと、
 [構造大講座]: 定方啓教授, 栗林栄一教授, 角徹三教授, 加藤史郎教授, 河邑眞助教授, 山田聖志助教授, 草間晴幸助教授, 浅草肇助手, 高島英幸助手, 雷哲翔教務職員
 [環境大講座]: 北尾高嶺教授, 本間宏教授, 中村俊六教授, 北田敏廣助教授, 松本博助教授, 青木伸一助教授, 木曾祥秋講師, 和田清助手
 [計画大講座]: 小野木重勝教授, 三宅醇教授, 渡邊昭彦教授, 瀬口哲夫助教授, 廣島康裕助教授, 大貝彰助教授, 森一彦助手, 西

澤泰彦助手

先生方の海外渡航は、この1年間で約30件と非常に多いため、全てをここで紹介することは不可能です。長期のものとしては、廣島康裕先生が平成4年12月から1年間の予定で、国際協力事業団の依頼で、フィリピン交通研究センタープロジェクトに専門家として従事しております。また和田清助手は、平成5年4月から半年間、アメリカのシアトル市にあるワシントン州立大学に滞在して共同研究を行い、10月帰国しました。

授賞関係では、本学名誉教授小林陽太郎先生が、建築環境工学・建築衛生学の発展に寄与した功績で日本建築学会大賞をお受けになり、平成5年7月に豊橋で盛大に祝賀会を催しました。本年度の日本建築学会関係の表彰では、他にも、旧教官の堀越哲美・名工大教授が学会賞を、同じく旧教官の藤田勝也・ノートルダム女子大講師が奨励賞を、4回生の土川忠浩・岐阜高専講師も奨励賞を授賞しました。

今春、学部卒業生62名中の11名、修士修了生45名中の41名、博士修了生1名を社会に送りだしました。今年度は不況を反映し厳しい就職戦線でしたが、就職担当の渡邊昭彦先生のご指導のもと、大部分の学生の就職内定を得ることができました。この件では、同窓会会員諸兄姉の支援に依るところが大きいので今後ともよろしくお願い致します。

知識情報工学系

本年3月に、知識情報工学専攻修士課程の第一期修了生諸君が社会に巣立っていったわけですが、学部を卒業して、社会人となった諸君も併せて、皆さん元氣にご活躍のことと思います。世界的な不況の中で、本年の就職状況はかなり厳しいものがありました。ようやくゴールも間近に迫ったようです。

近況報告ですが、若手の教官を中心として、2年前と比べ教職員の異動があります。徐粒、鶴見智、作田誠、江浩、本多一彦の各先生が、新しく助手として着任されました。一方で、他大学や本学の他の部署に移られた教職員もいます。太田敏澄先生は、本年4月より電気通信大学大学院情報システム学研究科教授に、中山雅哉先生は、本年6月より東京大学大型計算機センター助教授に、高橋岳之先生は、本年1月より本学

阪田省二郎

情報処理センター助手に、それぞれ就任されました。

平成5年9月現在の、知識情報工学課程、知識情報工学専攻、および知識情報工学系の構成は次の通りです。

学部: 1年生16名, 2年生13名,

3年生50名, 4年生57名

修士課程: 1年生54名, 2年生56名,

博士課程: 1年生5名, 2年生2名, 3年生4名

[情報科学コース]

教授: 阪田省二郎, 齊藤制海

助教授: 増山 繁, 河合和久

助手: 徐 粒, 鶴見 智

[機能情報工学コース]

教授: 吉田辰夫, 山本眞司, 伊藤嘉房

助教授：吉澤 誠

講師：杉田陽一

助手：神山斉己，江 浩

[分子情報工学コース]

教授：大澤映二，阿部英次

助教授：宮下芳勝，高橋由雅，船津公人

講師：デル・カルピオ・カルロス・アドリエル

助手：作田 誠，本多一彦

[社会情報工学コース]

教授：鈴木 康

助教授：朝日讓治，水鉋揚四郎

[事務局]

教務係（技官）：小西和孝

学系係：河合孝弘

最後に、卒業生、修了生の皆様の御健闘、御発展を
祈念致します。

エコロジー工学系

本年4月より、新しい系が発足しました。名称はエコロジー工学系（Department of Ecological Engineering）です。人類の生産規模の拡大が、深海底、ヒマラヤの山中、南極はもとより上空20kmの成層圏にも及ぶ地球全体で、その環境を、生態系を、しかも悪い方向に、不可逆的に変えつつあるらしいと言うことは同窓会の皆様も良く御存知のことと思います。人類の欲望と直結している“生産規模の拡大”を抑えることは、かなり難しいと考えられますので、この問題は深刻であると言わざるを得ません。また、問題の性格上、色々な意味で局所最適化にのみ眼を向けがちである既存の技術の考え方だけでは不十分ではないかと言うことも想像されます。このような人類の最重要課題を解決するという興望を担ってエコロジー工学系は誕生しました。学内、学外の全面的な協力の下に、最終的には、本学の他の工学系と同様の規模になると期待されていますが、発足時点の暫定的教官構成は以下の通りです。

系長：楠菊信副学長

系長補佐：川上正博（2系教授，協力）

生物基礎工学大講座：

鈴木慈郎（5系教授，協力）

SIDDIQUI, Shahid Saeed（助教授）

安田八郎（助手）

生物応用工学大講座：

水野 彰（教授）

北 田 敏 廣

DASCALESCU, Lucian Doru（助手，～9月30日）

桂 進司（助手，10月1日～）

辻 秀人（技術開発センター助手，協力）

生態環境工学大講座：

大竹一友（教授）

北田敏廣（助教授）

吉川典彦（1系助教授，協力）

木曾祥秋（6系講師，協力）

成瀬一郎（助手）

また、学際的であることを真に認識する必要がある本系では、冒頭に述べた本系設立の主旨に共鳴される諸君、さらに共感を覚えつつ、機械、金属、電気・電子、情報、化学、土木・建築、生物学、農学、地球物理学など既存の学問体系にも憧れる諸君、いずれの諸君の入学、編入学も歓迎します。同窓生諸氏の身近に該当する人物があれば、是非、本系への受験を勧めて下さい。

最後に、もっとも重要なことを申し上げます。栄えある一期生として16名の諸君が一年次に入学して来ました。名前を記して記録に留めたいと思います。相沢勇太、飯窪純一、市成 剛、乾 統、宇野彰洋、大西裕人、桶谷恵慈、久保哲彦、倉田知彦、杉山 誠、鈴木裕康、高橋政樹、西村裕太、丸地英暢、山本真充、渡辺尚之。

人文・社会工学系

平成5年1月以降の系内の動きをお知らせしましょう。

伊藤光彦先生が教授になりました。小杉隆芳先生が4月からフランスのジャン・モネ大学、河合弓子先生が今年の11月からオーストラリアのボンド大学で、それぞれ社会思想史とコンピューターを利用した日本語教育法の研究に、1年間従事されています。ドイツに留学中の浜島昭二先生は9月末に帰国される予定です。

エコロジー工学系の新設に伴い、シディキ先生と安田八郎先生がエコロジー工学系に移られ、10月から平

野 村 武

松登志樹先生を助教授としてお迎えしました。先生はエコロジーに関連した講義を担当されます。

土地はるみさんが3月末で退職されましたので、語学センター教務職員には鈴木聖子さんが着任されました。

5月1日付で学系係に移られた上田雅子さんに代わって2系から来られた三輪恵子さんに事務関係の仕事をお願いしています。

エコロジー工学系の設置により人文・社会工学系の通称は「8系」から「9系」に変わりましたが、一同「体む」ことなく教育・研究に頑張っています。

退官教官より

平成4年度

二枚の額

※この原稿は、大学の協力により「天伯」から転載したものです。

建設工学系 教授
紺野 昭



2月も既に半ばを過ぎたのに、あと1ヶ月余りで停年退官するという実感がわかないまま、研究室の片付けもなかなか進められずに、気持ちのみ苛立つ日々を過ごすこの頃である。

荷物の整理をはじめの中で、二枚の思い出深い額を何処に移したのかと考えあぐねている。

その内の一枚は、研究室にかけてある何枚かの内の一枚の「貞山政宗公遺訓」と題した一文の額である。この一文は、もう三十年余昔に、生前の父に習字の手本を頼んだところ、書いてくれた手本の中の一つであり、口の手術を受けて退院した後、自らの生活訓とするために、表装し額に作らせて、研究室の壁に掛けていたものなのである。

昭和30年代から40年代にかけての、わが国の高度経済成長期にあって、日本各地の調査や計画に飛び廻っている息子の生活ぶりに見かねて、習字の手本としてこの一文を戒めの為に渡してくれたのかは、今となっては知る由もないが、舌や顎を切除する手術を受け、もう喋れないかもしれない、もう流動食以外のものは口に出来ないだろう等々の術後の生活は、意志が思うように伝えられないもどかしさよりも、絶望、屈辱、焦燥と挫折と嘆きの連続の日々の中で、この父の書き残してくれた一文の何となくユーモラスで、心穏やかに死の準備をしなさいと言う教えに、心と思いで、この額を見続けてきたという愛着が強いのである。ちなみにこの一文は次のように記されている。

「貞山政宗公遺訓」

仁に過ぐれば弱くなる、義に過ぎれば固くなる、礼に過ぐれば諂いとなる、智に過ぐればうそをつく、信に過ぎれば損をする、気ながく心穏やかにして萬に儉約を用いて金を備うべし、儉約の仕方は不自由なるを忍にあり、此の世に客に來たと思えば何の苦もなし、朝夕の食事うまからずともほめて喰うべし、元來客の身なれば好嫌は申されまじ、今日の行き送り子孫兄弟によく挨拶して娑婆のおいと申すがよし。
というものであり、心穏やかにして周囲の人々との付

き合いを今以上にと言われている様に感じるのである。

もう一枚の額の方は、家の居間の壁に掛けてあったのだが、研究室からの荷物や、壁面の都合で取外して床に置いたままになっている額である。

この額も、手術後の見舞いに贈られた色紙を額としたものであり、毎日家にいる時に眺めていたものなのである。

これは古い友人（詩人である）の詩を、これも古い友人（書家である）が、色紙に書いて贈ってくれたものであり、次のように書かれている。

夏陽の中を
さわやかな風の
通るときがある
友よ待とう日を
慈しんで健気なときを
紺野大兄

この色紙は、古い友人達の中で、長期療養中の人が増えはじめる年令にお互いがなりつつある時、病氣療養中だった友人達に贈られた色紙の一枚であった訳なのだが、贈られた嬉しさはもちろん、詩も書もすっかり気に入って額にして毎日眺めては、元気づけられていた思い出の深い額なのである。

大学の研究室と家、それぞれにあって、手術後から今日の退官までの間、励まし続けてくれたこの二枚の額は、これからも常に目の届くところに掛けておきたいと思いつつも、どこにしたものだろうと思案の毎日なのである。

旧い教育制度の中で、戦前に小学校、戦中に中学校、戦後の混乱期に高校、そして戦後の復興期に大学、経済成長期のプランナー等々極めて変化に富んだ歳月を送り、かつ又口の手術というおまけまでついて、実に多くの友人を持つことが出来た反面多くの方々のご援助を受けながら、今日まで来ることができたことに感謝したい。とくに口の手術後、意志疎通もままならないわたしを支援し、無事停年まで務めさせて戴いた大学や学系の皆様方に心からお礼申し上げますとともに、大学と皆様方の益々の発展をお祈り申し上げます。

私も二枚の額の励ましを受けながら、地域とともに今後も歩み続けたいと思っております。

転任教官より

ゴルフ，鮎釣り，……研究

物質工学系 教授

上野 晃 史



昭和55年以来12年半、一言で言って実に楽しい歳月であった。私の属していた第5工学系は同年代の楽しい仲間の集りであったと感謝している。“何が楽しかったのか”，と問われれば臆することなく，“ゴルフですよ”，と答える。仲間の多くは、本気を出せば自分が一番うまいと自惚れている輩だから始末が悪い。1ラウンドをプレーして、100を中心にならぬ前後だから誤差±5%の範囲で、勝ったの負けしたのと騒いでいる。自分達の実験データを一寸考えてみたら良い。95も105も皆100なんだから。“ゴルフを見ていると、その人の人間性がわかる”，などと言う意見もあるから気を付けなければならない。相手のパットがはずれてホールに向うに転っていると，“もっと向うに行け！”と思いつつ、相手を慰める言葉を吐くものだから，“もっと止まれ，もっと止まれ”，などという発言となる。そう言えば根性があるというか，執念深いというか，“ここぞ”という時に必ずパットを沈める仲間が居て，その人には大分，授業料を払わせられた。最近では，根性も執念も枯渇気味と聞いているが。ホールインワンをやったのけ，一生のゴルフ運を使い果たした仲間も居た。芯にあたればICBMの弾道のように遙か彼方に飛んでいくが，めったに芯にあたることがないので安心という仲間も居た。いつも林や池に打ち込んでいるので，あの人の本名は木下さんか池中山さんなのではないかと疑ってしまいたくなる仲間も居た。大して飛距離も出ないくせに，こせこせとアプローチをこなし，スコアをまとめる仲間も居た。こんな仲間だったけれど，一緒にプレーしている時が一番楽しかった。これからは是非，一緒にプレーを続けていきたいと思っている。しかし，本気を出せば私が一番うまいし，今度は静岡大学に転勤しているので皆に気を使う必要もない。私の真の姿に驚くことであらう。

ゴルフは楽しかったが研究は辛いことが多かった。特に，後半の5年間は目標を見失ってしまった感が強い。もともと金属超微粒子の物性と触媒作用を検討するつもりで豊橋技科大に入れていただいたのだが，金属超微粒子そのものの物性を見ているのか，それとも，担体との相互作用の結果を見ているのか，自分には区別できなくなっていた。また，この問題を解決すべき手段も皆目わからなくなっていた。そこで，学術面よりも応用面に走ろうと思い，薄膜化や噴霧燃焼などの研究も開始した。いろいろな企業の方々から参考となる意見も沢山いただいたが，結局は生産性やコストなどから実用性も全くない，と結論せざるを得なかった。学生は毎年入ってくるが，与えるテーマの先行きは暗かった。学術的には何を求めるのか，応用面のゴールは何か，いずれも混沌とした日々であった。研究の発想も画一的となり，新鮮さがまるでなくなっていた。自分達の研究室の卒研発表や修論発表を聞いた際に，そう感ずるようになっていた。環境が変われば発想も新しくなるかもしれないと考え，市内で転居もしたが全然だめであった。

勤務先の環境を変えなければだめかも知れない，ということで，運良く静岡大学に転勤の機会を得，今年4月から勤務している。設備も予算もなく，全くのゼロからの出発としたので，きっと何かが変わってくるはずだと期待している。私生活の方に大きな転換がやって来た。鮎釣りである。私の転居先は天竜川のほとりなので，ものは試しと鮎を釣ってみたところ，釣れる，釣れる。こんなに楽しいことがあったのかと感激一杯で今夏を過ぎた。ゴルフも良いが，鮎釣りも本当に楽しい。肝心の研究面での発想の変換はまだまだでてこない。というより，研究の発想とかアイデアなんて，“何とかして”，と望んでいてもできるものではなさそう。じっと待つものかも知れない。新しいアイデアが湧かないままに定年を迎えても，それがまた人生，などと悟ったようなことを言ったら怒られるかな。

* 同窓生がお世話になった方々より *

「お元気ですか？」

「お元気ですか？」

私が手紙に書く最初の言葉です。そして同窓生の皆様にも述べたい言葉です。

私は、現在生産システム工学系で事務をしております。就職して10年過ちますが、今まで学生さんと接する機会が多く、いろいろ教えられました。

学務課に勤めていた頃は、学生の皆さんが私とほぼ同年代だったこともあり、話しやすさも手伝って、よく部屋の中へ入ってもらい、手続き等相談をしました。といってもこれはしばらくしてからのことで、当初はカウンターの窓口で、今思えば随分緊張して応待していたような気がします。思い出すとあの頃は初々しかったなあと。(勿論、今でも心は若く初心忘れるべからずなのですが)

学生課の頃は、応待が窓口から部屋の中が変わり、学生さんを見る視野も広がったような気がします。会話の中でちらりと見せてくれる皆さんの個性、人間性。今までの窓口応待では知り得なかったことを数多く体験し、同じ事をするにもそのやり方次第でいかようにも楽しみとなるものだとつくづく感じました。また、大学という考え方や立場が異なる大勢の人間がいる組織の中で物事を円滑にすすめ、信頼のある人間関係を築くことは難しいとも思いました。でも、ある日「元気ですか。」と声をかけてくれる人がいて、それだけでもとても嬉しくなりました。単純なことですが、ちょっとした言葉で気分が良くなることってありますね。

その後、物質工学系の事務室に移りました。ここでは、主として研究室に配属されている特定の学生と接します。先生と学生とのコミュニケーション。私が事務局で考えた以上に密接につながっています。ここに

学務課 伊藤道予

来て大学は教官、学生、事務によって成り立っているのかとつくづく感じさせられました。特に物質工学系は教官の部屋の向いの部屋に学生が居ます。私は事務室に居ましたが、数多くの教官室、研究室に混ざって、それこそ一体となって仕事をさせて頂いたようです。先生方も学生さんも同じ家の中に居て、まるで隣の部屋にくるかのように事ある毎に立ち寄って下さり、事務局の時とはまた違った雰囲気の中、皆さんの人間らしさにより深く触れられたように思います。私も皆さんと共に5系ファミリーの一員(実際、所属は異なるのですが)のようなつもりでいましたから、何事も今まで以上に強く感じられたことを覚えています。

そんなある日、卒業生が私の所に顔を出してくれました。その時も「お元気ですか？」と。私も懐かしさでその日は思い出やら、近況報告の花が咲きました。

現在の生産システム工学系にも同じく先生方、学生さんに囲まれて仕事をしています。配属先が変わるとそれぞれのところで雰囲気が少しづつ異なって、家であれば、習慣とか家風とかいったものでしょうか、これも楽しいと思っています。

大学のキャンパスはいつも10代から20代の若い学生さんがいます。この職場にいて今まで多くの人達に出会い、そしてこれからも今まで以上の数多い出会いがあると思うと、やはり人生は前向きということでしょうか?。明日は何があるかわからない。だから楽しいと思うこの頃です。そして、ここで共に過ごした卒業生の皆様。時には御連絡下されれば幸いです。「お元気ですか?」とまた声をかけたいです。

最後に、大学の発展を願うと共に、皆様のご活躍をお祈りします。

健康であれば……

厚生会食堂 山 分 正

卒業生、修了生の皆様、それぞれの分野でご活躍の事と思います。今年は、冷夏、地震、政権交代等々、自然、社会にいろいろな出事がありました。

又、皆様が、働いておられる企業でも、ほとんど例外なく、不況の風が吹き、取り巻く環境は、厳しい状態だと思えますが、母校、技科大で培った、経験と技術で乗り切ってください。

我々、皆様の食事を預った者として、今後の皆様自身、又、これから作られる家庭の幸せの為に、アドバイスさせていただきたいと思えます。

仕事が忙しい、又、上司、同僚、部下との付き合い

で不規則な食事、簡単なインスタント食品で済ましてしまう事が、有ると思えます。今は、体力も有り気力を充実しているので何とも思われなんでしょうが、そのツケは、必ず回ってくると思ってお下さい。皆様は、常に健康でなくてはなりません。朝食は、必ずとって下さい。そして1日3回規則正しい食事を心掛け、1日に30品目の食品を目安に、食べる事を心掛けて下さい。これで皆様の健康は確保、維持できます。

どうか、これから健康で、ご活躍されます様、お祈りします。

求む 投稿・表紙！！

■ 表紙

写真、絵、グラフィックデザイン等何でもOK!

・サイズ：B5版程度に縮小、拡大可能なもの。

※CM的な要素のものを除く。

採用の場合は薄謝を送付致します。

■ 投稿

23字/行 横書き 厳守

その他：内容・長さ等は問いません。写真も添えていただければ幸いです。

随時、受け付けますので下記まで送付下さい。

〒441 豊橋市天伯町字雲雀ヶ丘1-1

豊橋技術科学大学内

同窓会事務局

同窓会誌 編集係

■ 会員からの一言

同窓会では会員の皆さんからの原稿を常時募集しておりますが、執筆するとなると、それなりの内容とある程度の長さが必要であるということ、つついかしこまってしまうのではないのでしょうか。そこでもっと気楽に投稿していただけるように、「会員からの一言」というコーナーを設けたいと思えます。「結婚しました」とか「?月?日OB会開催」といった簡単な近況報告や連絡事項など、内容、長さは問いません。住所変更の通知や会費振替用紙の通信欄にでも結構ですし、もちろん葉書、封書で直接送っていただければ大歓迎。原則としてすべて掲載する予定ですので、どしどしお寄せください。投稿の際には、お名前、卒業あるいは修了年度、学科名をお忘れなく!

「頼まれた原稿は 今すぐポストへ」

編集委員からのお願いです。

研究室だより

「竹園研究室近況」

総合エネルギー工学専攻 2年 戚本広文

私達の研究室は、現在竹園茂男教授・埜克己助教授、そして本年新たに中国の華中理工大学から陳建橋助教授を指導教官に迎え、以下ドクター3名、M2が5名、M1が5名、B4が8名、女性研究者1名（計25名）の人員構成となっています。うち中国からの留学生が3名で、今後ポーランドからも研究者の来日が予定されており、益々国際色豊かな研例室になろうとしています。

何しろ、22名の学生がいるわけですから、最近では全員が一緒になって行動するという事がほとんどなくなりました。全員でコーヒーを飲みながら様々な話題に花を咲かせ、時には激論を交わしたあつたコーヒータンが懐かしく思い出されます。そういう面では少し寂しい気もしますが、なんといっても人数が多いという事は良い事です。ソフトボール大会では、3講座の覇者となって久しく、今も揺るぎない強さを誇っています。

研究に関して言えば、以前はかなりのんびりしたイメージがあり、俗に言う“楽勝研究室”の一つだったようですが、最近では、“徹夜が多い”、“ゼミが厳しい”といった本来の姿が認識されだしたようです。こういった研究室イメージの変化は、竹園研が技科大に昭和61年に発足以来、確実に定着したことを表しているのだと思います。実際、研究成果も着実に上がっており、学会発表も多数行われています。更に、これまでの研究テーマに加えて新しい分野、テーマに対する取り組みも盛んで、現在の主な研究テーマは

殻構造物に関する研究（弾粘塑性、熱負荷、多孔質材）

法工学に関する研究（自動車交通事故）

疲労き裂に関する研究（熱疲労）

損傷力学に関する研究（非局所損傷）

鋼管材の崩壊に関する研究

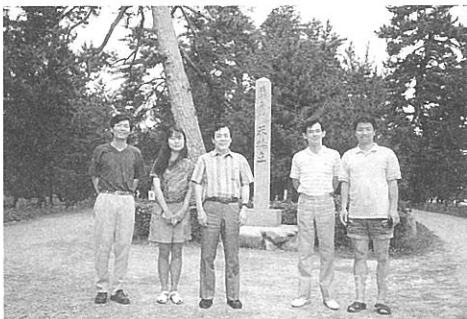
非弾性構成式に関する研究

ペローズ形状の最適化

等となっています。

このような活発な研究活動にもかかわらず、正式な研究室の名称は定かではなく、各人が随時「材力研究室」とか「固体力学研究室」などと自称している様です。私を含めた数人の間では、正式名は「竹園・埜・陳研」であるとの見方をしているのですが、学内では相変わらず「竹園研」で通っています。中には、就職や実務訓練の面接で「どこの研究室ですか？」と聞かれて、「竹園研究室です。」と答えて面接官を困らせる人もいるという噂です。

研究室はこれから年末年始にかけて、卒論・修論の提出時期を迎え、例年通り計算結果の出力用紙と切り貼りの山となることでしょう。当事者にとってはこれまでに経験したことのない大変さですが、OBの方からすれば今は懐かしい思い出となっているのではないのでしょうか。学生の顔ぶれは4、5年もすればガラッと変わってしまいますが、我々研究室一同、OBの方のご来訪を楽しみにお待ちしております。



平成5年8月 研究室旅行

「我ら神野研究室」

研究室一同

我々、神野・平田研究室は、ドクターに28歳2名、マスターに31歳1名（留学生）、学部で28歳2名（会社から）と、30歳前後のおじさんが大勢いる異色の研究室である。また、驚くことに5人中4人も結婚しているのであった。かといって、おじん臭さ(?)は全くない。それどころか、彼らの活躍で、ここ数年、勝ち知らず(!)のソフトボール大会準優勝、研究室旅行先での乗鞍岳(3020m?)を我々20歳過ぎの者を追い抜いて頂上へと、驚きを通り越して感動を与えてくれる。

さて、研究であるが大まかに3つに分かれていて、それぞれ1人ずつ、すなわち、3人の先生方の指導のもとで進んでおり、内容と先生方の特徴は次の通り。

ボス神野先生(頭脳基地)

- ・液体クロマトグラフィーを用いてC₆₀などの分離を行なっている。
- ・すべての研究室に細かな配慮が行き届いている。厳しさだけではなく優しさも備えている人柄は我々全員が認めるところ。

平田先生(戦車部隊)

- ・SFCの研究
- ・行動派で、徹底した個人指導(塾の宣伝ではありません)、いつも笑顔の先生。

藤本先生(仕事人)

- ・電気泳動の研究
- ・理論武装。年齢は10歳以上離れているが、我々に最も近い感じ。

実験の他には英語の輪講や雑誌会がある。輪講は週に1回、2時間、鬼のようなスピードでとばすことがあり、予習が大変。雑誌会は学期に1回、嵐のつっ込みで耐えること2時間、終われば、つかの間の天国が待っている。こうして鍛えられて成長し、立派に巣立っていくのである、のかな?

学生については——女と言えば……、すけべと言えば……、ドテチンと言えば……、彼女と言えば……、純情と言えば……、超高速歩行と言えば……etc. もちろん野郎ばかりでなく、モーモーさんやお相撲さん、いや、スタイル抜群、ひまわりのように明るい女性たち、いるだけでパッと花が咲いたよう——といった具合に(同級生はもちろん)先輩方についてすぐに思い浮かべることができる程、親密で、和やかな研究室である。

卒業生、修了生のみならず、こちらに寄る機会がありましたら、ぜひ研究室に遊びにきて下さい。

(この研究室紹介は、配属五ヶ月未満の三年生が書いたものです。あしからず。)



5系ソフトボール大会 準優勝 (H5.6)



研究室旅行(乗鞍岳) (H5.7)

水曜日の夜

7系 M1 吉田研 大川博文

起きて時計を見ると、針は4時を指していた。外はもう薄暗い。つまり、起きたのは夕方だった。

こう言うと、一般の感覚を持つ人ならば変に思うだろう。しかし、学生にとって時間が決まっているのは講義の開始と終了の時刻だけで、それ以外はどんな割り振りで生活しようがかまわないと、おれは考えている。

今日は講義の無い日だった。確か寝たのは、洗濯し終えた後で、朝の9時すぎだったと思う。頭がボーッとしていたので、風呂に入ってサッパリすることにした。髭を剃って着替えれば、5時頃には家を出ることができるだろう。

大学に着いたのは、実際には5時半を少し過ぎていた。だが、さっきも言った通り、時間なんてどうだっていいんだ。

エレベーターを待っていると、高専時分からの先輩に久しぶりに出会った。普通の生活をしている人にとっては、今頃は夕飯の時間で、そろそろ帰り支度を始めてもいいころなんだろう。

おれも愛想は良い方だから、こっちから声を掛けてしまう。「今、来たばかりだ。」という意味のことを言った。愛想笑いのような、また、小馬鹿にしたような顔で返ってきた言葉がよかった。——「まあ、吉田研はヘブンだからなあ。」このとてつもなくうまい冗談に、おれは反論することもなく笑った。

研究室に着いた時、中にいたのは10人程だった。学生数19人からすると約半分だが、いつものことだった。朝から来ていて、バイトのために、もう帰ってしまう奴もいれば、二部学生のように夜しかこない奴もいる。自由な研究室であるからこそ、ヘブン等とされているのだろう。

自分の席に向かうと、机の上に一枚の書き置き。おれが直接ついている、まだ若い先生からのものだった。

内容については読まずともわかっている。今後の研究のスケジュールだろう。

おそらくは、そのスケジュール通り研究が進むことはないだろう。おれは無類の怠け者だし、メ切りを破る時の駆け引きを十分に楽しんでいるからだ。しかし最近では、先生の方は十分にうんざりとしているらしく、そのゲームを滅多にやろうとはしてくれない。

研究室が落ち着きだしたのは9時すぎだった。外に飯を食いに行った後、数人が帰った。残ったのは6人で、後から1人来たので7人になっている。

先生からの催促もあったし、自分でも少し進めておかなければならないと思ったので、今日は作業をすることにした。

超並列計算機。この物騒な名前の機械がおれの仕事相手だ。こいつは1024個も頭があるくせに、全員同じことしかできない奴だった。こいつに付き合っていると、時計はすでに4時を回っていた。途中、ギターを弾いている奴と、歌をがなっていた時もあったが。とにかく、買い出しに出かけることにした。

外はまだ暗くて、刺すような寒さだった。頭はだんだんとさえ、色々なことを考え出した。「明日の講義は10時からだったな。」それに別の声が答える。「明日？ 今日やろ。日付もう変わってんで。」また別の声が、「明日が今日でも、昨日だって今日だけ。」

すでに何がなんだかわからなくなっていた。飯を食ったら仮眠をとらなければいけないだろう。研究室のソファベットは結構、寝心地がいい。もし誰かがすでに使っていたら、こたつで寝たってかまわないんだ。頭の中の声はどんどん冗舌になっていった。「なんで夜だっていうのに、研究室なんかにいるんだ？」それに答えたのは、去年卒業した先輩の声だった。

「歴史は夜作られる。研究は夜進む。」

「最新の研究情報」の発行

本学教官の最新の研究成果について、社会への速報性と浸透性併せて公開性の一環として昨年5月に「最新の研究情報」誌を発行しましたが、このたび平成5年5月現在でこの改訂版を発行しました。

これは、主として共同研究、技術相談など産学交流に役立てていただくため、昭和61年度から発行している「教官研究課題一覧」を見直し、充実を図ったものです。

内容は、1人1ページとし、各研究テーマごとに「研究概要」で研究のマクロな意味を非専門の中間管理職の方にもできる限り分かり易く紹介し、「関連文献」で詳細な内容を知り、更に「KW」(キーワード)を設けレベルの深さを知ることができる等、他大学にはない新しい試みで編集してあります。

規格は、A4版で189ページ。経費節約のため、各教官自身で原稿を作成し、ダイレクト印刷によって

2,000部を発行しました。今後も毎年発行する予定です。

まだ余部がありますので、御希望の方は角2型(33cm×24cm)封筒に返信先を記入、返信料360円切手を貼付し、下記の本学事務担当あて申し込んでください。

なお、本年度版が終了した場合は、少々お待ちいただき来年度版をお送りしますので御承知ください。

「最新の研究情報」(平成5年5月現在)

申込先:

〒441 豊橋市天伯町雲雀ヶ丘1-1
豊橋技術科学大学教務部
研究協力主幹付研究事業係
Tel. 0532-47-0111
内線 325

「熱意ある 同窓会スタッフ を求めます」

応募資格: TUT修了・卒業の方

(名古屋, 豊橋近郊)

勤務: 年3回程度の会議

及び自宅での作業(約30hr/年)

待遇: 同窓会規定により優遇

交通費支給

問い合わせ先: TUT同窓会事務局

総会を終えて

平成4年12月19日、新築なったサイエンス・コアで全学同窓会総会が開催されました。会場には、榎元学長、本多前学長、佐々木現学長をはじめ教官の先生方、そして同窓生諸氏が多数(約150名)集まり、懇親会では、当日の講演者の江口吾朗博士(岡崎国立共同研究機構基礎生物学研究所教授)も混じえ、あちらこちらで話に花が咲き、根を同じくした仲間同志の楽しい雰囲気が滞っていました。

平成4年3月22日豊技大D514会議室で開かれた役員会で4年に1度の総会を平成4年12月に開催すること、そして事実上の第1回同窓会総会として、同窓会結末の^{はずみ}となるような盛大で充実した総会とすることが決定されました。以下に総会にまつわる裏話をお話します。

第一に会場の選定が問題でした。豊橋を離れ新幹線などを利用する卒業生のことを考えると、豊橋グランドホテルが便利でしたが、コストの問題や収容人数の制限などから決定力に欠けました。豊技大と豊橋財界の協力で発足したサイエンス・コアがちょうど年末に竣工するので、オープニング記念の一環として同窓会総会を実施すればコストも低く押えられるし、何より大学側も喜ぶであろう、と一石二鳥のような妙案がでてサイエンス・コアとしました。

第二は講演者でした。講演者は総会の看板ですので、慎重に熟慮し関係者の中で相談を重ねました。お招きした江口教授は基礎生物学研究の泰斗であり、ノーベル賞候補にあがる世界的研究者ですが、技術と科学のあり方にも深い見識をお持ちで、豊技大の今後のあり方にも少なからず興味をお持ちでした。講演ではそうした科学と技術についての考え方、またご自身

総会担当幹事 正田要一・江崎昇二

の研究をスライドを使って判り易く(少なくとも表面的には判ったような気がしましたが…)説明されました。素晴らしい講師をお招きできたと、思いました。

第三は、サイエンス・コアからの帰りの参加者の交通手段でした。いろいろな妙案がでましたが、結局豊鉄バスに頼むことにしました。幹事が豊橋鉄道(株)本社へ神野社長を訪ね臨時バスの運行をお願いしたところ『路線バスを増便し、運輸省に内緒でルートを若干(と言うにはかなりですが…)変更して走らせる』とまさにツルならぬ社長の一声で快諾してくれました。頼みにいった幹事一同、豊技大の実力に感心したり、豊橋鉄道社長の腹の太さに感心したりしました。

第四には、出席者の数の問題でした。総会がま近になった11月になっても出席者の数は70名を越えず、会場の広さと出席者数のアンバランス、あるいは収入と支出のアンバランスから出席者を増やす必要がありました。役員会では各系幹事に各系から40人出席者を確保するよう要請しました。また、佐々木学長には系長会議で各系教官の更なる出席を呼びかけていただきました。何とか当日は150名程の出席者となりましたが、読者の同窓生諸氏は次回以降の総会には万難を排して出席するようお願いします。

まだ他にも、豊橋駅への案内看板でJRと一悶着あったことなど話は尽きませんが、紙面の都合上、この辺りで筆を置きます。最後に、総会の開催にあたり絶大な支援を頂いた佐々木学長を始め先生方、またいろいろと裏方で協力頂いた同窓生有志の皆さんに深く感謝し、総会を終えることにより、^{はずみ}のついた同窓会が益々発展することを祈念して、話を結ばせて頂きます。

平成4年度就職内定先一覧

No	就 職 先	学部	修士	博士	計
一 般 企 業					
1	アイシン精機(株)		2		2
2	アイセロ化学(株)		1		1
3	ア ス モ (株)	1			1
4	アルプス電気(株)	1			1
5	ア ラ コ (株)	1			1
6	アンダーセン コンサルティン		1		1
7	愛三工業(株)		1		1
8	愛知電子(株)	1			1
9	愛知電機(株)		1		1
10	旭化成工業(株)		4		4
11	旭硝子(株)	1	1		2
12	(株)新井組	1			1
13	(株) I N A X		1		1
14	石川島播磨重工業(株)		2		2
15	出光興産(株)		1		1
16	ウシオ電気(株)		1		1
17	NBC長崎放送(株)		1		1
18	N O K (株)		1		1
19	NSKワーナー(株)		1		1
20	N T N (株)		2		2
21	オークマ(株)		1		1
22	オルガノ(株)		1		1
23	オムロン(株)		3		3
24	オムロンソフトウェア(株)	1			1
25	大塚製薬(株)		1		1
26	(株)大本組		1		1
27	(株)大林組		1		1
28	沖電気工業(株)		2		2
29	(株)沖データシステムズ		1		1
30	花 王 (株)		2		2
31	川崎重工業(株)		2		2
32	(株)関電工	1			1
33	キャタラー工業(株)		1		1
34	キャノン(株)		4		4
35	岐阜精機工業(株)	1			1
36	九州電力(株)		1		1
37	九州松下電器(株)		1		1
38	京 セ ラ (株)		1		1
39	(株)宮栄電業社		1		1
40	(株)クボタ	1			1
41	黒崎窯業(株)		1		1

No	就 職 先	学部	修士	博士	計
42	コーセル(株)	1			1
43	(株)コーデック		1		1
44	コンピューターテクノロ ジーインテグレート(株)		1		1
45	光洋精工(株)		1		1
46	興 和 (株)		1		1
47	(株)神戸製鋼所		5		5
48	佐藤工業(株)	1	1		2
49	シャープ(株)	2	5		7
50	清水建設(株)		1		1
51	新東工業(株)		1		1
52	神鋼電気(株)		2		2
53	住鋳潤滑剤(株)	1			1
54	昭和電線電纜(株)		1		1
55	昭和電工(株)		2	1	3
56	新日本製鐵(株)		6		6
57	新日鉄情報 通信システム(株)	1			1
58	新日本理化(株)		1		1
59	新明和工業(株)		1		1
60	スズキ(株)		2		2
61	スター精密(株)		1		1
62	住友化学工業(株)		1		1
63	住友金属工業(株)		3		3
64	住友金属鉱山(株)		2		2
65	住友建機(株)	1			1
66	住友重機械工業(株)		1		1
67	住友電気工業(株)	1	1		2
68	セイコーエプソン(株)		1		1
69	(株)ゼクセル		2		2
70	積水ハウス(株)		2		2
71	ソ ニ ー (株)		1		1
72	ソニー国分(株)	1	1		2
73	ソニー浜松(株)	1			1
74	ダイキン工業(株)		1		1
75	ダイセル化学工業(株)		1		1
76	(株)ダイヘン	1	1		2
77	(株)タダノ	1	1		2
78	大成建設(株)		1		1
79	大日本インキ 化学工業(株)		1		1
80	大日本印刷(株)		2		2
81	大日精化工業(株)	1			1
82	大和ハウス工業(株)		2		2
83	太陽工業(株)		1		1

No	就 職 先	学部	修士	博士	計
84	(株)高岳製作所		1		1
85	竹本油脂(株)		1		1
86	千代田化工建設(株)		1		1
87	(株)中 部		2		2
88	中部電力(株)		4		4
89	中国電力(株)		1		1
90	中外炉工業(株)	1	1		2
91	(株)槌 屋		1		1
92	(株)電力中央研究所		1		1
93	トピー工業(株)		1		1
94	トヨタ自動車(株)		3		3
95	(株)トヨタ車体研究所		1		1
96	(株)都市環境研究所		1		1
97	戸田建設(株)		1		1
98	東 レ (株)	1	3		4
99	東レエンジニアリング(株)		1		1
100	東陶機器(株)		2		2
101	(株)東 芝		9		9
102	東芝機械(株)		1		1
103	東邦ガス(株)		2		2
104	(株)東海総合研究所		1		1
105	(株)東京オールアンドディ	1			1
106	東京フェライト製造(株)	1			1
107	東京ガス(株)		1		1
108	東京電気(株)		2		2
109	東急建設(株)	1	1		2
110	東北電力(株)	1	1		2
111	東洋インキ(株)		1		1
112	東洋銅板(株)		1		1
113	東洋紡績(株)		1		1
114	徳山曹達(株)		1		1
115	鳥取三洋電機(株)		1		1
116	豊田工機(株)		1		1
117	(株)豊田自動織機製作所		1		1
118	長野日本無線(株)		1		1
119	南海建設(株)	1			1
120	(株)ニッショー		1		1
121	ニチアス(株)		1		1
122	日本アイビーエム(株)		1		1
123	日本イーエムビー(株)		1		1
124	日本ガイシ(株)		4		4
125	日本ケミコン(株)		1		1

No	就 職 先	学部	修士	博士	計
126	日本テトラポッド(株)		1		1
127	日本テキサスインスツルメンツ(株)		1		1
128	日本バイリーン(株)	1	1		2
129	日本ビクター(株)		1		1
130	日本貨物鉄道(株)		1		1
131	日本金属工業(株)		1		1
132	日本軽金属(株)		1		1
133	日本合成ゴム(株)		1		1
134	日本銅管(株)		2		2
135	日本原燃(株)	1			1
136	日本車輛製造(株)		1		1
137	(株)日本製作所		1		1
138	日本電気(株)		5		5
139	日本電気アイシーマイコンシステム(株)		1		1
140	日本電装(株)		8		8
141	日本電信電話(株)		2		2
142	(株)日建設計		2		2
143	日東電工(株)		2		2
144	日東技術情報センター	1			1
145	日東食品製造(株)	1			1
146	日新製鋼(株)		1		1
147	日清食品(株)		1		1
148	日産自動車(株)		3		3
149	(株)日水コン			1	1
150	(株)日揮		1		1
151	(株)野村総合研究所		1		1
152	バイオニア(株)		1		1
153	ハウス食品(株)	1			1
154	ハリマ化成(株)		1		1
155	バンドー化学(株)		1		1
156	浜松ホトニクス(株)			1	1
157	(株)ヒカリ		1		1
158	(株)ビジネスブレイン太田昭和	1			1
159	日立工機(株)		1		1
160	(株)日立製作所	2	4		6
161	日立造船(株)		1		1
162	日立メデイコ(株)		1		1
163	(株)ファナック		1		1
164	(株)フジクラ		1		1
165	(株)フジクリン工業		1		1
166	(株)ブリヂストン		1		1
167	(株)不二越		1		1

No	就 職 先	学部	修士	博士	計
168	藤吉工業(株)		1		1
169	富士ゼロックス(株)		2		2
170	(株)富士電機		1		1
171	富士通(株)		1	1	2
172	富士通VLSI(株)		1		1
173	(株)富士通コンピュータテクノロジ	1			1
174	富士電気化学(株)		1		1
175	富士重工業(株)		1		1
176	(株)ほくさん		2		2
177	北海道エニコム(株)		1		1
178	(株)北建	1			1
179	(株)堀場製作所		1		1
180	本州化学工業(株)		1		1
181	本多電子(株)		1		1
182	マツダ(株)	1	1		2
183	松下寿電子工業(株)		1		1
184	松下電器産業(株)		6		6
185	(株)松下電器情報システム名古屋研究所		1		1
186	松下精工(株)	1			1
187	松下電工(株)		6		6
188	(株)牧野フライス製作所		1		1
189	丸善石油化学(株)		1		1
190	萬有製薬(株)		1		1
191	ミサワホーム(株)		1		1
192	三井金属工業(株)		1		1
193	三井東圧化学(株)		2		2
194	三浦工業(株)	1			1
195	三浦研究所		1		1
196	三田工業(株)	1			1
197	三菱化成(株)		1		1
198	三菱自動車工業(株)	1	4		5
199	三菱重工業(株)		2		2
200	三菱電機(株)		5		5
201	三菱電機マイコン機器ソフトウェア(株)	1			1
202	三菱マテリアル(株)		1		1
203	三菱電機メカトロニクスソフトウェア(株)	1			1
204	三菱造船(株)		2		2
205	三菱レイヨン(株)		1		1
206	メンタークラフィックスジャパン(株)		1		1
207	(株)明電舎		1		1
208	ヤマハ(株)	1	1		2
209	ヤンマーディーゼル(株)		1		1

No	就 職 先	学部	修士	博士	計
210	矢崎総業(株)		1		1
211	安川電機(株)		1		1
212	山形日本電気(株)		1		1
213	ユニオンツール(株)	1			1
214	横河電機(株)		1		1
215	吉川建設(株)	1			1
216	(株)リコー		1		1
217	リョービ(株)		1		1
218	理学電機工業(株)		1		1
219	ロックベイント(株)		1		1
220	ローランド(株)		1		1
221	その他(自営業等)	2	1		3
小 計		53	287	4	344
国 の 機 関					
222	防 衛 庁			1	1
223	豊橋技術科学大学			1	1
224	仙台電波工業高等専門学校		1		1
225	福井工業高等専門学校		1		1
226	松江工業高等専門学校			1	1
227	阿南工業高等専門学校		1		1
228	熊本電波工業高等専門学校		1		1
小 計			4	3	7
そ の 他 の 公 共 機 関 等					
229	日本放送協会		1		1
230	日本道路公団		2		2
231	福島県立会津大学			1	1
232	北 海 道	1			1
233	青 森 県	1			1
234	秋 田 県	1			1
235	茨 城 県	1			1
236	東 京 都	1			1
237	愛 知 県	1			1
238	奈 良 県	1			1
239	広 島 県	1			1
240	山 口 県	1			1
241	金 沢 市	1			1
242	豊 橋 市	1			1
243	豊 川 市	2			2
小 計		6	10	1	17
合 計		59	301	8	368

(平成5年2月1日現在)

第42回東海地区国立大学体育大会成績一覧表

番号	種目	順位	優勝	準優勝	第3位	第4位	第5位	第6位	第7位	第8位	備考
1	陸上競技	男	静大 8	岐大 6	三重大 5	名大 4	愛教大 3	豊技大 2	名工大 1		
		女	静大 5	岐大 4	三重大 3	名大 2	愛教大 1				
2	水泳	男	名大 10	三重大 8	岐大 6	静大 5	名工大 4	愛教大 3	浜医大 2	豊技大 1	
		女	岐大 8	愛教大 6	名大 5	三重大 4	静大 3	浜医大 2	名工大 1		
3	硬式野球	男	名大 8	愛教大 6	(岐大, 名工大, 静大, 豊技大, 三重大 3)						
4	準硬式野球										中止
5	テニス	男	(浜医大, 名大, 岐大, 名工大, 静大, 愛教大, 豊技大, 三重大)								オープン
		女									中止
6	ソフトテニス	男									中止
		女									
7	バスケットボール	男	名大 10	静大 8	愛教大 6	三重大 5	岐大 4	名工大 3	浜医大 2	豊技大 1	
		女	愛教大 5	静大 4	岐大 3	名大 2	三重大 1				
8	バレーボール	男	愛教大 10	三重大 8	豊技大 6	静大 5	名大 4	岐大 3	浜医大 2	名工大 1	
		女	静大 5	愛教大 4	三重大 3	岐大 2	名大 1				
9	卓球	男	名大 8	豊技大 6	静大 5	岐大 4	三重大 3	愛教大 2	名工大 1		
		女	愛教大 5	静大 4	三重大 3	名大 2	岐大 1				
10	バドミントン	男	静大 10	名大 8	岐大 6	愛教大 5	豊技大 4	浜医大 3	名工大 2	三重大 1	
		女	名大 8	静大 6	愛教大 5	三重大 4	名工大 3	岐大 2	浜医大 1		
11	サッカー	男	静大 10	愛教大 8	三重大 6	岐大 5	名工大 4	名大 3	浜医大 2	豊技大 1	
12	ハンドボール	男	静大 10	豊技大 8	岐大 6	名工大 5	名大 4	愛教大 3	浜医大 2	三重大 1	
		女	三重大 4	愛教大 3	岐大 2	静大 1					
13	柔道	男	名大 8	静大 6	愛教大 5	岐大 4	豊技大 3	名工大 2	三重大 1		
14	剣道	男	岐大 8	愛教大 6	名工大 5	静大 4	(浜医大, 豊技大, 三重大 2)				
		女	三重大 5	愛教大 4	岐大 3	静大 2	浜医大 1				
15	体操	男	静大 6	名大 5	岐大 4	三重大 3	愛教大 2	名工大 1			
		女	(名大, 岐大, 静大, 愛教大) (注) 愛教大は参加者が4名のため団体とは認めなかった。								オープン
16	馬術	男	名工大 6	愛教大 5	(名大, 岐大, 静大, 三重大 2.5)						
17	空手道	男	浜医大 10	静大 8	岐大 6	三重大 5	名大 4	豊技大 3	愛教大 2	名工大 1	
18	弓道	男	名工大 8	静大 6	(浜医大, 名大, 岐大, 愛教大, 三重大 3)						
		女	岐大 8	三重大 6	静大 5	名工大 4	名大 3	愛教大 2	浜医大 1		
19	アーチェリー	男	(岐大, 三重大, 静大, 愛教大, 豊技大) (注) 豊技大は参加者が2名のため団体とは認めなかった。								オープン
		女	愛教大 4	三重大 3	岐大 2	静大 1					
20	少林寺拳法	男	名大 8	三重大 6	愛教大 5	豊技大 4	静大 3	名工大 2	岐大 1		
総合順位		男	静大 99.5	名大 89.5	愛教大 74	岐大 71.5	三重大 62.5	名工大 49	豊技大 44	浜医大 28	
		女	愛教大 39	静大 36	三重大 36	岐大 35	名大 23	名工大 8	浜医大 5		

(備考) 表中の大学名の右数字は得点を示す。

同窓会事務局より会員の皆様へ

ご 挨拶

(2系5期) 近藤 秀 範

同窓生の皆様には、お元気でご活躍の事と思います。

さて、昨年12月の同窓会設立10周年記念総会には、多数のご出席をいただき、誠にありがとうございました。おかげさまをもちまして、盛大かつ成功裡に終わりましたことをここにご報告させていただきますと共に、ご出席の皆様、関係各位の皆様に御礼申し上げます。ありがとうございました。

昨年12月の同窓会総会において、会則改訂の提案を致しましたところ、満場一致を持ちまして可決され、本年より施行されております。新しい会則の基本的なコンセプトは、会の運営を現実に即したものにすることにあります。また、運営の効率化にも主眼をおいて改訂いたしました。これにより、かなりの部分で、同窓会の運営を担当している役員の負担が軽減され、また、会員の皆様には、円滑な同窓会運営が約束でき、充実したサービスを実施でき、同窓会活動

の活性化がはかれるものと考えております。会員の皆様のご理解とご支援をお願い申し上げます。

同窓会活動も本年で11年目に入りました。これまで、人材不足などにより、同窓会運営の危機的状況も幾度かありましたが、どうか活動を続けてまいりました。10年を節目にそろそろ何か新しい活動ができないものかと考えております。会員の皆様で、何かアイデアをお持ちの方がいらっしゃいましたら、私の方へ直接でも結構ですのでご提案いただければ、ありがたいです。

同窓会設立10年、まだまだ若く、層も薄い同窓会ですが、未来永劫、豊橋技術科学大学のOBが誇りを持って活躍できるようバックアップするための同窓会活動を続けてまいりたいと思います。皆様のご理解とご支援をよろしくお願い申し上げます。

平成5年10月27日

同窓会事業報告 (平成4年度から平成5年度)

1. 会報の発行

平成4年度の会報(10号)については、予定通り昨年12月に発行した。平成5年度の会報(本号)については、例年通り今年度12月に発行する予定である。

2. 会員名簿第3号の発行

平成4年度の会報(10号)と同時期に発行する予定で準備を進めてきたが、会員のデータベースの更新などの作業の遅れにより、会員名簿の発行は一年ほど遅れる見通しである。なお、これまで、会員のデータ

ベースの整備は名簿担当の役員のボランティアにより行われてきたが、会員数の増大により新規登録・更新の作業に遅れが生じ始めている。このことから、来年度よりデータベースの管理を業者に委託する予定である。

3. 第5回総会の開催

第5回総会を昨年12月19日に100余名の会員を集めて開催した。平成元年度から平成4年度までの活動報告、平成元年度から平成3年度までの収支報告および平成4年度予算案、同窓会会則改定案、平成5年度から平成8年度までの活動計画について議事が進めら

れ、全会一致で了承された。また、今回の総会は同窓会設立10周年記念として総会と同時に講演会、懇親会を開催した。参加人数は目標を下回ったものの、これらの催しは好評のうちに終了し、この総会は成功であったと思われる。なお、次回の総会は平成8年度開催の予定である。

4. 卒業記念パーティの開催

新会員の同窓会活動への理解を深めてもらうことを目的に、在学生で構成される学友会が主催する卒業記念パーティをにこれまで毎年資金援助を行ってきた。平成4年度からは学友会との共催という形で卒業記念パーティを開催することとなった。平成4年度は実施済み、5年度も引き続き実施する予定である。

5. 同窓会会則の改定

同窓会会則を現状に合致するものに改定し、第5回総会において了承された。同窓会会則の主な改定点は、次の通りである。

1. 会員資格の改定

正会員資格を「かつて学籍を置いた者」に変更。これにより中退者でも希望により同窓会へ入会の資格を得られる。現行の会則では、博士課程在学中の者の身分が不安定であったが、この改定により、準会員として認められ、学籍を離れた時点で正会員となる。

2. 名誉会長を名誉顧問と改称

現行の会則では学長を名誉会長として最高助言者としていたが、助言をいただくのは顧問であるとの認識により、実務者の称号である会長より顧問の方が適切であるとの判断による。

3. 評議員の廃止

有名無実化していた評議員制度を実体に合わせて廃止。

4. 会費改定

年会費制度から終身会費制へ変更。入会金5,000円、終身会費10,000円と改定。

終身会費10,000円は現行の年会費10年分と同額。なお、今まで入金された年会費は返還しない。

会費の徴収は、入学時（準会員入会）に一括して行う。

6. 平成5年度同窓会役員の構成

名誉顧問 佐々木愼一 学長

顧問 …

会長 近藤 秀範 (2系5期)

副会長 江崎 尚和 (2系1期)

副会長 橋爪 進 (2系7期)

事務局 江崎 尚和 (2系1期)

橋爪 進 (2系7期)

監事 正田 要一 (6系)

田中 勝 (6系)

会計担当 奥山 徹 (4系1期)

山本 幹雄 (4系5期)

塩見 彰陸 (4系8期)

石井 宏幸 (4系10期)

編集担当 水嶋 生智 (5系5期)

川口 正剛 (5系6期)

佐藤 裕久 (5系7期)

名簿担当 奥山 徹 (4系1期)

山本 幹雄 (4系5期)

塩見 彰陸 (4系8期)

石井 宏幸 (4系10期)

高橋 岳之 (7系4期)

神山 斉己 (7系7期)

総会担当 柳田 (1系1期)

江崎 昇二 (1系3期)

正田 要一 (6系1期)

田中 勝 (6系5期)

同窓会平成4年度収支報告および平成5年度予算案

	平成4年度予算	平成4年度決算
前年度繰越金	3,301,407	3,301,407
入会金	1,000,000	2,125,000
年会費	300,000	1,429,000
預金利息	100,000	57,562
会報広告代	100,000	0
小計	1,500,000	3,611,562
収入合計	4,801,407	6,912,969
通信費	150,000	1,860
事務費	20,000	5,470
人件費	200,000	189,800
交通費	50,000	0
設備費	100,000	0
役員会経費	20,000	18,512
会報印刷費	600,000	752,221
会報郵送費	500,000	659,536
会報投稿謝礼	100,000	30,000
2系同窓会立上げ補助	20,000	0
学友会後援会	100,000	100,000
C G コンテスト	250,000	0
小計	2,110,000	1,757,399
總會会計補填金	—	370,334
次年度繰越金	2,691,407	4,785,236
支出合計	4,801,407	6,912,969

* “—” は、その年度に計画されていないものを示します。

	平成5年度予算
前年度繰越金	4,785,236
入会金	3,000,000
預金利息	100,000
会報広告代	100,000
小計	3,200,000
収入合計	7,985,236
会報経費	650,000
印刷代	600,000
投稿謝礼	50,000
役員会経費	160,000
通信費	30,000
資料作成費	30,000
役員手当	100,000
卒業記念パーティー	150,000
C G コンテスト	250,000
会費振替	970,000
庶務経費	100,000
小計	2,280,000
次年度繰越金	5,705,236
支出合計	7,985,236

設立10周年記念總會会計 収支決算

収入

項目	予算案	決算
参加費	1,197,000	676,000
会員, 教官	1,092,000	658,000
学生	105,000	18,000
寄付金	—	42,000
一般会計補填金	—	370,334
収入合計	1,197,000	1,088,334

支出

項目	予算案	決算
懇親会	700,812	777,737
講師関係	112,130	112,117
謝礼	100,000	100,000
交通費(新幹線)	4,130	4,130
交通費(タクシー)	5,000	5,000
土産	3,000	2,987
会場関係	200,000	173,192
看板	100,000	49,721
会場費	100,000	97,721
金びょうぶ	—	25,750
雑費	—	25,288
支出合計	1,012,942	1,088,334

* 豊橋技術科学大学同窓会会則 *

第1章 総則

- 第1条 本会は、豊橋技術科学大学同窓会と称する。
 第2条 本会は、本部を豊橋技術科学大学内に置く。
 第3条 本会は、会員相互の親睦を図り、豊橋技術科学大学の発展に寄与することを目的とする。

第2章 事業

- 第4条 本会は、前条の目的を達成するため、次の事業を行う。
 (1) 会員名簿の発行
 (2) 会報の発行
 (3) 総会の開催
 (4) その他、本会の目的を達成するために必要とされる事業

第3章 会員

- 第5条 本会は、次の会員をもって組織する。
 (1) 正会員 豊橋技術科学大学にかつて学籍を置いた者
 (2) 準会員 豊橋技術科学大学に現在学籍を置いている者
 (3) 特別会員 豊橋技術科学大学の現職及び退職教員
 (4) 賛助会員 本会の目的を賛助する個人または法人で、理事会において推薦された者
 2 本会会員は、その所在を変更の都度、本会に通知する義務を負う。

第4章 組織

- 第6条 本会に次の役員を置く。
 (1) 名誉顧問 (豊橋技術科学大学学長)
 (2) 会長 1名
 (3) 副会長 2名(庶務担当)
 (4) 理事 原則として各系2名
 (5) 顧問 若干名
 第7条 本会の役員の選出は、次の各号に定めるところにより行う。
 (1) 名誉顧問は、現豊橋技術科学大学学長とする。
 (2) 会長、副会長は、正会員のうちから理事会の推薦を得て会員の承認を得る。
 (3) 理事は、正会員のうちから理事会が推薦した者及び会長の委嘱による者とする。
 (4) 顧問は、役員経験者もしくは特別会員のうち理事会において推薦された者とする。
 第8条 本会役員の任期は2年とする。但し留任は妨げないものとする。
 第9条 本会の議決機関として理事会及び総会を開催する。

第5章 役員

- 第10条 会長は、本会を代表し、会務を総括する。
 2 副会長は、会長を補佐し、会長に事故あるときは、その職務を代行する。
 3 理事は、理事会において意見を述べ、事務局及び本会運営の責務を負う。
 4 名誉顧問および顧問は、本会の運営について助言を与え、会長の要請に応じて本会の会務に出席し意見を述べることができる。

- 第11条 理事は、本会の次の具体的な業務の実行を担当する。

- (1) 庶務
- (2) 会計
- (3) 会報の編集、発行
- (4) 理事会、総会など重要な会務の開催及び召集
- (5) 会員名簿の管理

- (6) 監査

- (7) その他、本会の事業全般

- 2 各業務責任者は理事が担当し、業務遂行する。

第6章 理事会

- 第12条 理事会は、第6条に定められた役員により構成される。
 第13条 理事会は、会長の要請により庶務担当が開催の責務を負う。
 第14条 理事会は次の事項を審議する。
 (1) 本会の事業の運営に関する事項
 (2) 事業報告及び決算報告
 (3) 事業計画案及び予算案
 (4) 賛助会員の推薦に関する事項
 (5) その他、本会の運営に関する議案
 第15条 理事会の議決は、理事会に出席している役員の過半数の賛成を必要とし、可否が同数のときは、議長が決める。理事会の議長は会長が務める。理事会に欠席した役員の議決は、出席している役員の総意に委ねたものとみなす。

第7章 総会

- 第16条 総会は、定期総会と臨時総会とし、会長が召集する。
 2 定期総会は、4年に1回開催することを原則とする。
 3 臨時総会は、会長が、その必要を認めた時、開催する。
 4 会長は、総会を召集するとき、事前に文書で正会員に通知しなければならない。
 第17条 総会は次の事項を審議し、承認または議決する。
 (1) 会則の制定・改廃
 (2) 事業計画及び収支予算案
 (3) 事業報告及び収支決算案
 (4) その他、本会の運営に関し重要な事項
 第18条 総会の議事は、出席正会員の過半数で決め、可否が同数のときは会長が決める。議長は、会長が努める。

第8章 会計

- 第19条 本会の運営に必要な経費は、会費、寄付金、その他の収入をもってこれに充てる。但し、必要に応じ、理事会での議決、総会での承認を得て臨時費を徴収することができる。
 第20条 本会の正会費は、次のとおりとする。
 (1) 入会金 5,000円
 (2) 終身会費 10,000円
 2 会費の納入は入学時に一括して行う。在学中は、準会員としての資格を得る。
 第21条 既納の会費は原則として返納しない。但し、準会員が、卒業もしくは修了以前に学籍を離れる場合に限り、半年以内に請求があれば、返納する。その場合、会員資格を失う。
 第22条 本会の会計年度は、4月1日に始まり翌年3月末日に終る。

第9章 雑則

- 第23条 本会会則の改訂は、理事会の議決を経て総会の承認を必要とする。
 第24条 本会会則施行に必要な事項は、理事会の議決を経て会長が定める。

付則

- 1 本会則は、平成4年12月19日の総会において会則改訂の承認を得て、平成4年12月20日から施行する。
- 2 平成4年度及び5年度在学学生は、第20条における会費の納入を卒業、修了時に一括して納入する。

広報担当者 様

豊橋技術科学大学同窓会誌広告掲載のご依頼

拝啓、益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。

さて、当同窓会では、より円滑な運営を図るべく、同窓会誌に広告を掲載することに致しました。

つきましては、下記のように掲載広告を募集していますので、広報担当者にお口添えくださいますようお願い申し上げます。

発行後、見本として5冊は無料でお送りしますが、その他は有料（500円/冊）となります。6冊以上必要な場合は版下送付の際にお申し添え下さい。

ご多忙中、お手数をお掛け致しますが、宜しくお取り許らい下さいますようお願い申し上げます。

敬 具

1993年12月15日

豊橋技術科学大学同窓会 会長 近藤 秀範

記

◎同窓会誌：B5版，30ページ程度，白黒

(1) 内容…学内近況報告，研究室紹介，事務官より 等

(2) 発行…年1回

(3) 部数…約5500部 *今後400部/年で増加

◎広告掲載料：5万円/1ページ，3万円/0.5ページ

◎送付先：豊橋技術科学大学同窓会

愛知県豊橋市天伯町字雲雀ヶ丘1-1 〒441

◎締め切り：'94年9月末日

◎支払い方法：銀行振込 *発行後，請求書をお送します。

◎問い合わせ先：下記まで郵送にてお願いします。

〒441 愛知県豊橋市天伯町字雲雀ヶ丘1-1

豊橋技術科学大学同窓会 事務局

— 編 集 後 記 —

今年は同窓会の編集や名簿など主要な役員が不在となり、その引き継ぎが不十分だったために同窓会の運営がスムーズに進まず、同窓生の皆様にご迷惑をおかけしたと思います。私自身、去年は編集の仕事の手伝いだけであまり苦勞しませんでした。今回は編集の仕事を一から初めてその難しさを痛感しました。

編集の仕事で一番難しいところは、原稿の依頼・収集です。前々回の会報からは、この点を少しでも軽減するために、そして同窓生が一番知りたいと思われる大学の情報を中心にするために、記事を学内から集めるようになりました。それでも、今回は連絡が不十分だったためか、原稿の回収が一ヶ月も遅れてしまい、年内発行が危うくなってしまいました。

これからもよりよい会報を作っていきたいと考えておりますが、編集の仕事をしていて同窓生の存在（リアクション）が感じられません。同窓会をより活発なものにするためにも、同窓生からの投稿、企画等をお待ちしております。

最後に、原稿を書いて頂いた方々、ならびにお手伝い頂いた方々に感謝いたします。